

# 文化

原理主義とは、大学教員らがシンポジウム

## 思考停止、多様性無視の危険指摘

単眼  
複眼

「原理主義」とは何か……。同志社大(京都市上京区)でこのほど、同大学一神教学際研究センターの教員らによるシンポジウムがあった。宗教に「原理主義」のレッテルをはって思考を停止し、多様性を無視してしまう危険性や、欧米の考え方の中にも「原理主義」が潜んでいる実態などが指摘された。

まず、一神教の専門家が教義などの側面から論じた。

同大学の小原克博教授は「原点への回帰は、どの宗教にも見られる」とした上で、キリスト教の立場から、原理主義という言葉はもともと、1910年代のアメリカで、進化論など近代主義精神への反応としてプロテ

スタントが使い始めた自称だと説明。それが、79年のイラン・イスラム革命以降、他者を呼ぶ言葉としての「イスラム原理主義」に転用されたと説いた。同大学の手島勲矢教授はユダヤ教

の立場から、同大学の中田考教授はイスラム教の立場からそれぞれ、「原理主義」という言葉への違和感などを語った。

続いて、中東、アメリカ、ヨーロッパにおける「原理主義」の実相が議論の対象に。

日本女子大の臼杵陽教授(中東地域研究)は、1月にパレスチナの国会にあたる自治評議会の選挙で勝利したハマスを取り上げ、「ハマス政権が何をしているのかを見る前に、イスラム原理主義組織、つまりはテロリスト、といったレッテルがはられ、評価が定まってしまっている」と批判。「アメリカは、例えば石油が出るサウジアラビアのことはイスラム原理主義の国だとして断罪することはない。

的な聖書理解などを特徴とする神学運動だったが、80年代以降は積極的に政治にも参加するようになった」と指摘。共和党のレーガン大統領を誕生させたこと指摘した。

一橋大学院の内藤正典教授(イスラムと西欧の相関文明論)は「今、ヨーロッパでは、『リベラル』と呼ばれる立場の人々がイスラム教徒に対して排外的になっている。この21世紀に宗教は要らないというようなどう向き合ったらいいのか」と問題提起した。森教授は「自分は『答え』を知っていて、それ以外の『答え』を認めないというのが『原理主義』だ。アメリカも、自分の『正しい答え』を海外に広げようとしているという意味では、『原理主義』と言える。もしかしたら違う『答え』があるのかも知れない、といった思考が大切だ」。

かつてドイツの医師マックス・ピカートは「われわれ自身のなかのヒトラー」という言葉を投げかけた。「自身のなかの原理主義」にも自覚的であるべきだということか。(小林正典)